

選考委員賞

生息域と開拓

赤坂中学校 荒川 晃

僕は、生物を大切にすることと、元々あった自然を壊さずに大切に保護することは同じことだと思えます。なぜなら、その地を開拓してしまったことで元々そこを生息域にしていた生物が開拓地に慣れきれず、絶滅や、絶滅危惧種に分類された生物もいるからです。生物を絶滅させないためには、その生物の生息域を開拓せずにそのままにしておくなどさまざまな方法があります。しかし、それを行わなかったために、絶滅した生物もいます。

ドードーという生物をみなさんは知っていますか。ドードーは、サトウキビのプランテーションの開拓のため生息域をうばわれました。さらに、天敵に食べられたり、人間に食べられたりしたうえに、子孫を残す時、一匹ずつしか産めなかったことが重なり、絶滅に至りました。一番大きかったのは生息域をうばわれたからだと思えます。

また、ドードーが絶滅したために、絶滅危惧種に分類された植物があります。カルバリア・メジャールです。カルバリア・メジャールは、とても堅い外皮を備えているため、一般的な動物はこの果実を食べません。しかし、ドードーは他の動物とはちがいで、この果実を好んで食べます。カルバリア・メジャールは、ドードーの力を借り、仲間を増やして

いきました。ところが、ドードーが絶滅してしまったため、カルバリア・メジャールを食べる動物がほとんどいなくなっ
てしまいました。それからだんだん、だんだんとカルバリア・メジャールの数は減っていきました。

インド洋のモーリシャス島で起きた、この見るも無残な出来事は、こういった人間達の勝手な開拓により起きた事
でした。僕は、この出来事は回避できたのではないかと思
います。当時、砂糖は「白い金」と呼ばれるほどとても高
価なものでした。だからサトウキビのプランテーションを
作ったのだと思います。しかし、払う犠牲が大きすぎるの
ではないかと思えます。一度絶滅してしまった生物は、人
間の手でもう一度生命を取り戻すことはできません。だか
ら、もっとよく考えてから開拓に踏み込むべきだったと思
います。たとえ開拓してドードーの数が減ったとしても、
その後のケアをしつかりしていれば、今のような絶滅とい
う形にはなっていなかったんじゃないかと思えます。

僕は、そう簡単に自然を削って行ってほしくないです。
なぜなら開拓することでそこを生息域にしていた生物達の
命をうばう、または、弱らせてしまうからです。そこで、
僕は廃工場や使われなくなった土地を優先的に再開発し、
できるだけ自然をそのままの形で保護した方がいいと思
いました。これからは、空気汚染も考え、公共の乗り物を優
先的に使い、少しでも環境保護に取り組むといった姿勢が
大切になってくるので、僕はみんなを環境保護に引っ張っ
ていけるようになりたいです。